＜株式会社エフエム東京　第３３８回放送番組審議会＞

１．開催年月日：平成１９年３月６日（火）

２．開 催 場 所：エフエム東京　本社１０階大会議室

３．委員の出席：委員総数７名（社外７名　社内０名）
◇出席委員（６名）
子 安 美 知 子　委員長　　青　池　愼　一　副委員長
内　木　文　英　委員　　横 森 美 奈 子　委員
内　館　牧　子　委員　　香　山　リ　カ　委員
◇欠席委員（１名）
渡　辺　貞　夫　委員
【事務担当　黒坂放送番組審議会事務局長】

４．議題
（１）最近の活動について
（２）番組試聴：「TRAVANCE」
2007 年 2 月 17 日（土）20:30 ～20：55 放送分
（ダイジェスト版）　＜試聴時間：約１７分＞

≪議事内容≫
議題１：最近の活動について

◎「編成改革プロジェクト」が答申を提出

現状の編成を改革し、TOKYO FM の将来を見据えた新しい編成のあり方を構築すべく、12 月 29 日に「編成改革プロジェクト」を組織、執行役員編成制作局長をリーダーに、全社から 16 名のメンバーを任命し、改革案の検討を進めてきました。プロジェクトでは、日本で一番人気がある、信頼を集める、影響力の大きいナンバーワンステーションを目指し維持していくための議論を重ね、2 月中旬に意見をまとめ、プロジェクトから答申が提出されました。

プロジェクトからの提案は、まず、「魅力のあるメディアは様々な〝価値〟の集積体である」という考え方に立ち、「TFM が今後獲得すべき 11 の価値」を定めています。11 の価値は 3 つの大見出しで括られています。ひとつは「日本一のミュージックリコメンダー」、それから「音声放送ならではの発見と共感」、三つ目は「好感度の高いステーションイメージ、コーポレートイメージ」です。そして、11 の価値を獲得していくための 26 の具体的な行動計画、実現のための組織改編案も提案されました。さらに、その行動計画について、どのような感性でクリエイティブワークを実行していくか。つまり、編成・制作する感性基準として「COOL JAPAN」というコンセプトを設定。音楽、アニメ、アートなど今や世界から注目が集る日本のポップカルチャーを賞賛する言葉が「COOL JAPAN」（粋な現代日本文化）ですが、TOKYO FM が感性基準とする「COOL JAPAN」は、もちろん外国人から見た COOL ではなく、日本人の視点に立って、日本人のための、洋邦の音楽をはじめとする COOL を追い求めていこうという姿勢です。

具体的な行動計画のもと 4 月改編、続いて 10 月改編、そして来年の 4 月改編というステップで、改革案を実現させるべく進めて参ります。

◎ デジタルラジオ番組への広告出稿が続々決定

TOKYO FMの3セグメントデジタルラジオに、広告出稿の決定が動き出しました。

2月14日（水）から、株式会社資生堂が、2月15日（木）からは、KDDI株式会社がCM放送を開始いたしました。また、アサヒ飲料株式会社が、3月2日（金）に放送したデジタルラジオ特別番組にて、番組提供としては初のスポンサーとなりました。

従来の音声CMに加え、静止画や動画CMの放送、自社携帯サイトへのリンク画面を表示するデータ放送CMなど、デジタルラジオならではの機能を駆使した新しい試みによる広告宣伝を展開しています。

＜資生堂 コメント＞

高音質でハイクオリティーな映像が魅力の媒体で、音楽・映像に関心の高い若者に、ワンセグ以上のフル画像ＣＭ送信が実現できることが魅力。

＜KDDI コメント＞
ケータイ向け放送はレスポンスを簡単に取れることから、今までにない宣伝・マーケティングツールとしての利用が可能。他社に先駆けて新しいメディアの特性把握、活用方法の検証を進めたい。

＜アサヒ飲料 コメント＞
メディアを取り巻く環境は近年、めざましいスピードで進化しており、その先駆けといえる新しいデジタルラジオで、新しくなった「十六茶」をアピールしたい。

◎ TOKYO FM 関連 WEB 総合月間アクセス数が１億 pv を突破

TOKYO FM の PC 及びモバイルホームページへの１月の総合アクセス数が、1 億 0076 万 3825PV を記録し、最高値を更新するとともに、1 億 PV の大台を超えることとなりました。

＜参考＞
・ニッポン放送　約１５００万ＰＶ
・ＴＢＳラジオ　約１０００万ＰＶ
・J―ＷＡＶＥ　約７０００万ＰＶ

◎SCHOOL OF LOCK! MY GENERATION Vol.2 YUI 卒業ライブ@岩手一関学院高校

SOL の出演アーティストが、リスナーからの要望に応えて卒業式にサプライズゲストとしてライブを行う企画「MY GENERATION！」。昨年のアジアンカンフージェネレーションに続き、今年は YUI が、3 月 1 日、岩手県の一関学院高校にて卒業ライブを行いました。娘がリスナーであったことからこの企画を知った同校の吉田教諭が番組へ応募し見事当選。ライブ後、吉田教諭は「自分はメールを送るワンクリックでこの大きな場面を実現できた。みんなは卒業式を“ワンクリック”のスタートとして人生の“ライブ”を楽しんでください」と卒業生を激励。小野寺校長は「子供たちの目の輝きに驚いた。結果は想像以上」とライブの成功を喜んでいました。また、ゆずは今年統廃合される学校限定で同

じ企画を展開、応募の中から選ばれた東京都立久留米高校で、最後の卒業式に感動のライブを行いました。

議題２：番組試聴

【番組名】「TRAVANCE」
【放送日時】2007 年 2 月 17 日（土）20:30 ～20：55 放送分（ダイジェスト版）
【番組概要】
世界最高のクリスタル・ブランド「バカラ」の提供により、2 月からスタートした新番組。
日本でバカラクリスタルが初めて使われたのは、明治時代に茶の湯に取り入れられたところからであったように、文化はいつも“伝統”＝「TRADITION」を重んじながら、大胆な“先進性”＝「ADVANCE」を取り入れることによって育まれてきた。本番組では、世界の各界で、伝統を重んじながらも革新性を取り入れることで新しいムーブメントを生み出している文化人たちにインタビュー、明日への生きていくヒントや勇気を届けていく。
ナビゲーター＆インタビューアはフローラン･ダバディ。フランス、アメリカ、日本を良く知る彼が、世界的視点で案内していく。

＜フローラン・ダバディ　プロフィール＞
1974 年パリ生まれ。父はフランスを代表する脚本家、作詞家ジャン・ルー・ダバディ（映画『うず潮』『ギャルソン』『ソテ』等、音楽ではミッシェル・ポルナレフ、イブ・モンタン等）、母は元『ＡＤ』（インテリア雑誌「Architectural Digest」）のフランス版編集長。
・1992 年　パリ・ハイスクール卒業後、UCLA で演劇とジャーナリズムを学ぶ
・1993 年-1997 年 パリ東洋学院日本語学科にて、日本語と韓国語を専攻
・1998 年-2002 年 映画雑誌「プレミア」とファッション誌「ＥＬＬＥ」のエディターとして来日
・1998 年-2002 年 同時期に、サッカー日本代表監督トルシエ氏の通訳兼アシスタントとなる。
その後、ジャーナリスト活動に戻る。著作は 7 冊に及ぶ。キャスターとしては、スポーツのレギュラー番組（ＷＯＷＷＯＷやフジテレビ）、そのほかテレビ番組や雑誌のプロデューサーとしても活躍の場を広げている。

＜試聴時間：約１７分＞

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側説明）

○　この回のインタビューゲストであるバイオリニストは、
　　何歳ぐらいの方？
■　50歳くらいの方。
○　一人のゲストを何回かにわたって取り上げるのか？
■　2回にわたって一人を取り上げる。

○　折り目正しい感じのする番組。日本に住んでいる外国の方がきちんとした言葉遣いの日本語を話しているのが印象的。ただ、聴く側が、ダバディさんの折り目正しい日本語をどれだけ堪えて聴けるのかどうか。土曜の夜なので、リラックスして聴けるものがいいのか、それともこの番組のように意識を高めよう、聴いてみようと思わせるのがいいのか。雰囲気をどこまで作っていけるかだと思う。

○　今まで番組試聴をしてきたなかで、一番わかりにくいと感じた。70 年代の FM 放送を聴くことがおしゃれだった時代の番組のような感じがする。こういう番組をつくった意図がどういうことなのかわかりにくい。クオリティがよくても、知られていないゲスト、つたないしゃべりでは、聴く側の嗜好性に強く左右されると思う。どう判断していいのか、わからない。

○　何でも便利に手軽になっていく時代とのずれはあれど、他の局にはできないことという点で評価されてもよいのではないか。TOKYO FM でないと創れないものを創っていくことが、評価につながるのではないか。
　　内容は若干説明不足なところがあり、わかりにくい。
　　バイオリンの音源をもう少し聴きたかった。

○　基本的には素晴らしいと思った。毎回、どんな方をゲストにしているのか？
■　日本とフランスで活躍している文化人・各界の方を取り上げている。
○　日本人がゲストのこともあるのか？
■　ある。雑誌の編集者など。

○　知られていないけれども、こんないい人がいる、という方がゲストに出る番組があってもいいのではないかと思った。また、ダバディさんの話し方を通じて、外国人が語る論理的な日本語のおもしろさを感じた。

○　難しいところに踏み込んだなという感じ。バカラが一社提供になると、ブランドイメージを傷つけないためにも、ここまでする必要があるのだな、と感じた。「哲学」「含蓄」「メタファー」「エレメント」といった言葉を使っているのが固い印象になる。若い人が、この高いレベルの内容や質にどこまでついていけるのか。今の若い人はこれを聴いていられるレベルにないと思う。「ジェットストリーム」のような、高級なイメージの中にもポピュラリティーをもてる作り方を、どう工夫していけるかだと思う。ダバディさんの固い日本語をプラスに使える方法や、原稿をもう少しわかりやすくするにはなどを、充分議論していった方がよい。
また、ダバディさんのインタビューがインタビューになっていない。イージーリスニングのように聴き流すならよいが、この番組ならもっとゲストの答えに対して深く突っ込むことがあってもいいのではないか。ダバディさんのありかたを考える必要がある。ゲスト選びも中途半端にならないようにしたほうがよいと思う。

○　最近の番組視聴に出てくる番組を聴いていると、時代の土壌が変容してきているのを感じる。メンタリティが変わってきているのか。深い精神的な部分が反映されて、以前の番組とは変わってきているように感じる。
この番組も難しいことを言っているが、逆に次は何を言おうとしているのか聴きたくなった。日本人が話さない日本語だからこそ、何が言いたいのか聴いてあげようという気持ちになることもあるのではないか。

５．放送番組審議会の内容について
審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

６．公表
議事内容を以下の方法で公表した。
① 放　　送：番組「Heart Sharing」
３月２５日（日）　６：００～８：３０放送

② 書　　面：TOKYO　FM サービスセンターに据え置き
③ ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ：TOKYO　FMホームページ内　http://www.tfm.co.jp

７．その他
次回審議会は４月１０日（火）に開催することを決めた。

以　上